

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	児童一人一人の理解度に応じた学習活動を工夫し、目的意識をもって主体的に学ぶための教育活動を推進する。	中間評価		最終評価	
		授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にでもわかりやすく、安心して参加し、ともに学ぶことのできる学習環境を整える。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学話を最後まで聞くことが難しい場面もある。新出漢字の練習に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>学いろいろな単語を使って、文章を書けるようにしていく必要がある。語と語のつながりに注意して文章を書くことに苦手な意識をもつ児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで集中して聞けるよう指導していく必要がある。話の大事なところをとらえて話せるようにする。 知っている片仮名や漢字を活用して文章を書くことが苦手な児童が多い。片仮名や漢字を適切に使って文章が作れるよう指導する必要がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く活動では注意を喚起してから話す。また、話す活動は伝えたいことを伝えられるよう、教師が話型の模範を示す。 「書くこと」の単元で語と語のつながりに注意して文章が書けるよう指導する。学習活動の中に書く活動を意図的・計画的に取り入れる。 		
	算数	<p>学具体物を動かす場面を多く取り入れることで、たし算・ひき算の計算の仕方を理解してきている。</p> <p>学文章題を解くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのある加法の計算の仕方について定着させる必要がある。 文章題の把握を苦手にしてしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でブロックなどの半具体物を用いた操作活動を取り入れる。練習問題で定着を図る。 文章題を解く上で、キーワードとなる言葉に注目させて問われたことを理解した上で、解くことを徹底させる。 		
3	国語	<p>調漢字の読み取りはよいが、書き取りと筆順については、5ポイント目標値を下回っている。場面の様子、登場人物の気持ちの読み取り等も同様に下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き取りが苦手である児童が多い。 要点をつかんで話を聞きとることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の繰り返し練習を大切にする。また、辞書を手に用意し、辞書を活用して成り立ちや書き順を身に付けさせる。5W1Hを意識して聞き取ったり読み取ったりできるようにする。 		
	算数	<p>調学力定着度調査では、平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。中では、たし算やかけ算や長さ・かさの正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> たし算やかけ算では、繰り上がり正しく処理できない児童がいる。 長さやかさでは、単位換算を苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導や家庭学習を利用し、学習を習慣化させ、定着を図る。 単位換算では、単元ごとに既習事項を振り返り、定着を図るとともに、日常化を図る。 		
4	国語	<p>調学力定着度調査の領域別正答率において、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域で区の目標値を大きく上回っている。しかし、「書くこと」の正答率が45%と5ポイント目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、文で表現するのが苦手な児童の割合が多い。また、順序立てて書いたり、物事に対して自分の考えを書いたりすることが特に課題である。 平均は上回っているが、話すこと聞くことについて最後まで相手意識をもって、話す・聞くことに取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を引く活動を多く取り入れて、語彙数を増やす。また、自分の意見を発表したり、文で表現したりする活動を多く取り入れる。文章は、定型文や手本となる文を提示して、その表現を使いながら書かせることで、苦手意識をなくしていく。 メモを取りながら話を聞きまとめる活動や、ポイントをおさえて聞く活動を設定する。 		
	算数	<p>調学力定着度調査では、全体の達成率が80%と区を上回っている。しかし、たし算ひき算では、スコアが47.9と目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則演算については、数が大きくなったり、問題数が増えたりすると、処理にミスが増える児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリル学習などで、根気強く四則演算の練習に取り組みせ、精度を高めていく。また、見直しを習慣化させ、集中して学習に取り組めるよう環境を整えていく。 		
5	国語	<p>調学力定着度調査では、目標値は上回っているものの、区平均よりも低く、特に「書く能力」の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業においても、書くことに苦手意識が強く、自分の思いや考えを文章に表すことが難しい児童が多い。 漢字の習得において、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の時間に限らず、各教科において「書く」活動を多く取り入れる。 習熟に応じた個別指導を行い、理解の定着を図る。 朝学習の時間など、漢字の習得のために時間を十分に確保する。 		
	算数	<p>調学力定着度調査では、全体の達成率が50%と学年が設定した、目標を下回っている。特に、わり算、計算の決まりの標準スコアが全国平均より大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体の達成度が2極化しており、D層の児童が多い。 わり算や計算の決まりなどを苦手とし、計算力がついていない児童が30%近くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 解法の見通しをもって学習できるよう、既習事項を積み上げていく。 四則演算については個別に繰り返し指導を行い、家庭学習でも習慣化させ、四則演算の技能が定着するよう声をかけていく。 		

6	国語	<p>調 学力定着度調査では、達成率が 66.7%で、学年が設定した目標値を下回っている。特に、領域では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、観点別では言語についての知識・理解・技能の習得、とりわけ4年生までの漢字の習得が必要である</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多い。苦手な児童の多くは、語彙が少なく簡単な言葉に言い換えることができずに悩んでいることが多い。 これまで学習した漢字や言葉を積極的に使わせ、定着させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の課題を定期的に取り入れ、週に1度は取り組む時間を設ける。その際に、文章中に入れる言葉やテーマを指定することで、題意に合った言葉を選ぶ経験を積ませる。 学習したことを掲示板に残し、いつでも授業中に参照できるようにする。学習の初めに、掲示板の内容を振り返らせ、今までの学習とのつながりを意識した取り組みにする。 		
	算数	<p>調 学力定着度調査では、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好である。問題の内容では「体積」が目標値に11ポイント届いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 達成度が2つの山になっている。D層の底上げが必要。 体積など頭の中で、形を思い浮かべるのが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく模型など具体物を提示し、解法の見通しを立てる時間を十分にとる。 まなびにつなげて連携して学習に取り組んだり、個別指導で指導を繰り返したりして、定着を図る。 		
音楽	<p>学 歌唱では、声が弱々しい子もいるが、おおむねとても意欲的で、響きのある声で歌えている。</p> <p>学 器楽では、個別の支援を必要とする児童が各学年数名いる。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 器楽では、運指を押さえられず、音楽の活動に対して抵抗感を示す子もいる。また、歌唱の際に表情のない歌い方をしている子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に指導し、個人で目標を設定し達成感を味わわせる。分かりやすくスモールステップで個別指導をする。歌唱の際、発声練習や楽しんで歌える活動を増やし、意欲を高める。 			
図工	<p>学 全体的に、意欲的に制作できる児童が多い。図工が苦手な児童や支持が通りにくい児童には、個別に支援し、寄り添って指導を行っている。児童が理解しやすいように、実物投影機や写真などを提示し、授業を進めている。また、本を活用し、作品に生かす児童も多く、意欲的・自主的に取り組んでいる。毎時間、声掛けや掲示をし、何よりも安全第一を心掛けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も、児童の学習状況に差ができる。 数名、作品のアイデアが浮かぶまでに、かなり時間のかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた掲示物や資料を提示したりして、安心して授業に取り組める環境を作る。また、休み時間や昼休みに時間を設け、個別に指導を行う。 アイデアが浮かばない児童には、声掛けや美術系の本を活用することを勧め、丁寧に寄り添い指導する。 			
特支	<p>学 自分の考えを相手に伝わるように表現することが苦手である。</p> <p>学 流暢に読んだりすらすら書いたりすることが苦手である。</p> <p>学 集中して活動に取り組むことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすことが課題である。 相手意識をもつことが課題である。 持続して取り組む力を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のプログラムを活用し、個に応じた学び方で語彙を増やせるようにする。(言葉のプログラムの活用) ソーシャルスキルトレーニングを行う。 環境調整を行う。 			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。